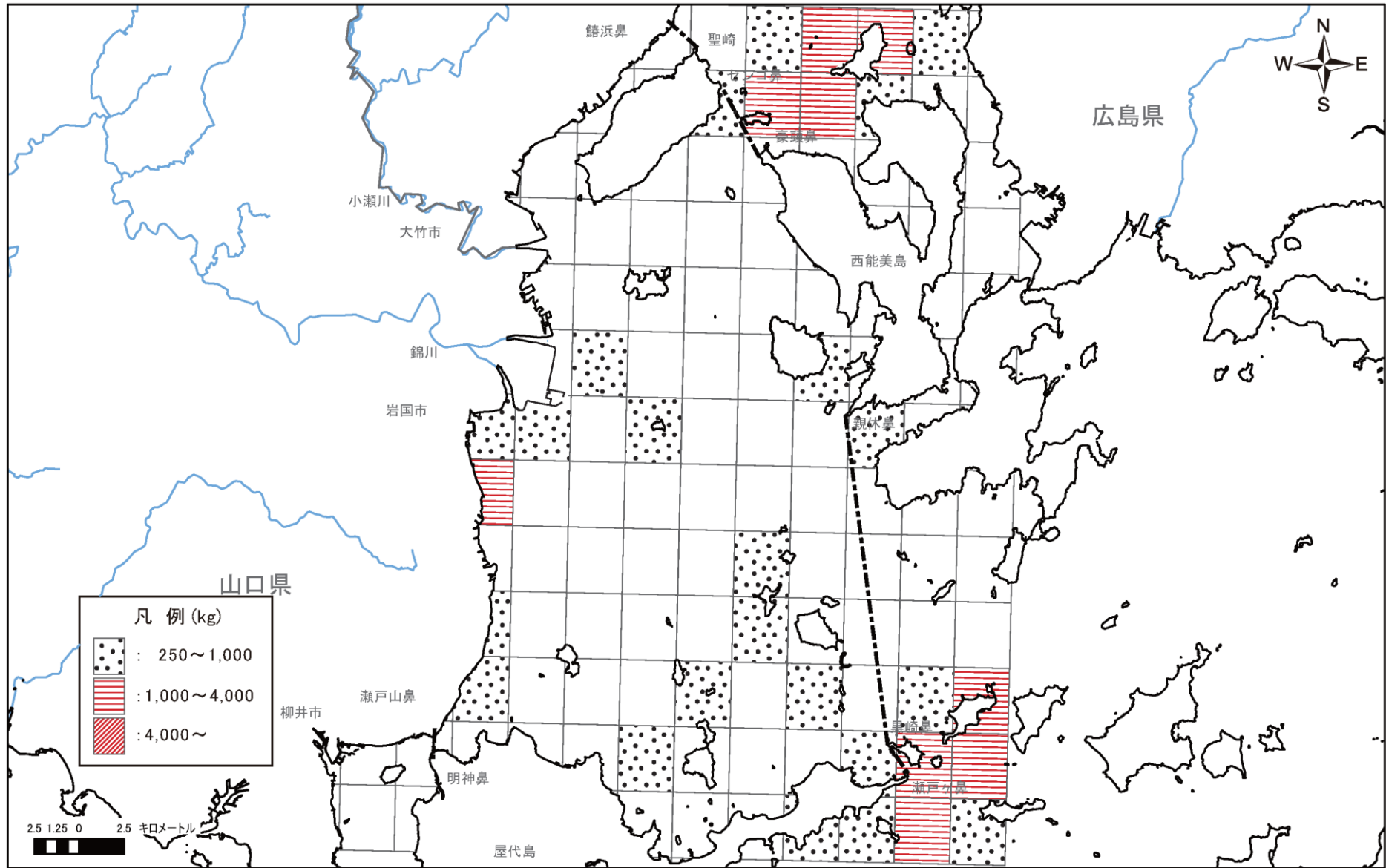


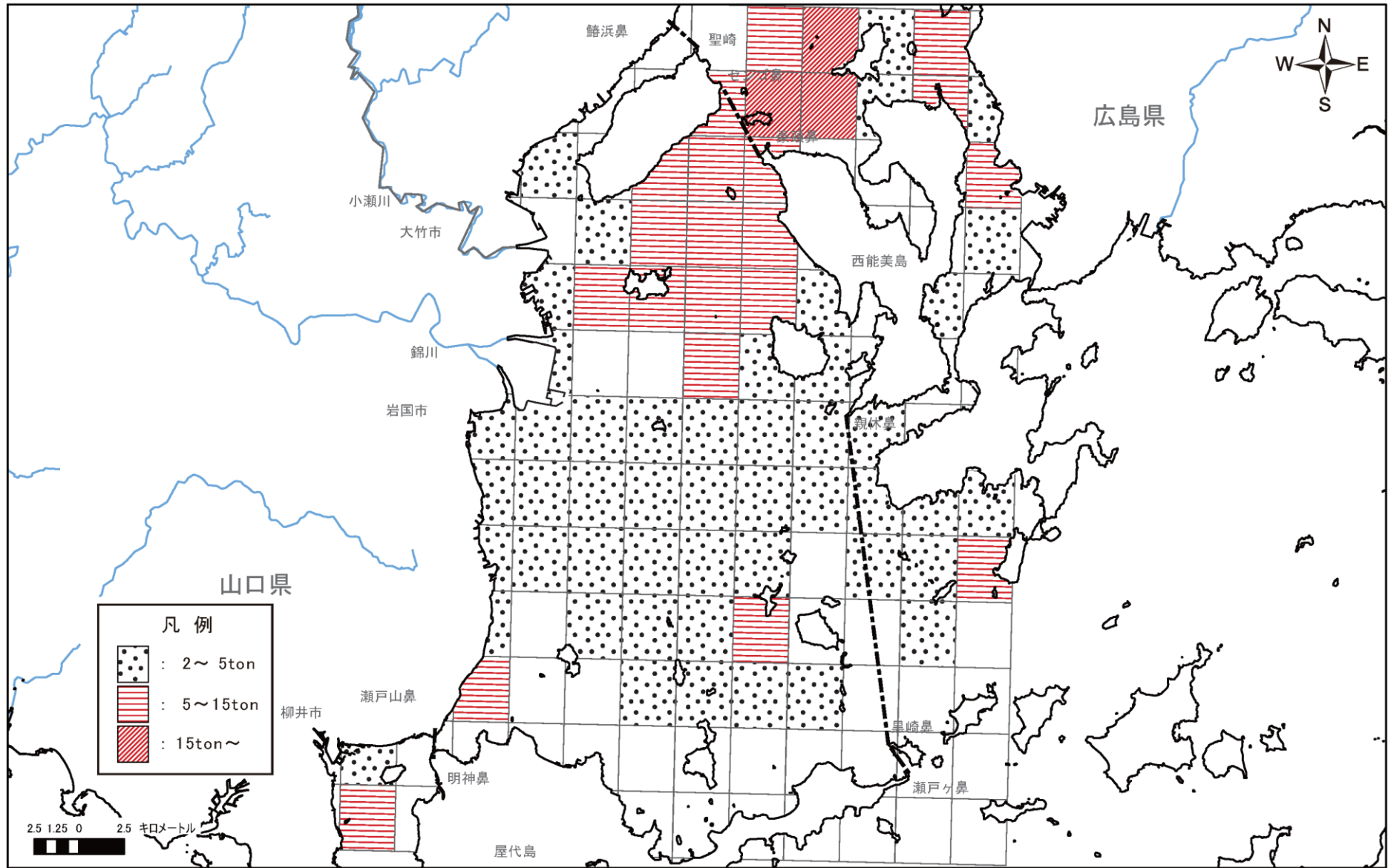
表 2.6 主要魚介類 5 種の漁場分布からみた干潟・藻場等の利用状況

魚種	産卵場として利用されていると考えられる干潟・藻場等
スズキ	南部の干潟（沢潟海岸～通津美ヶ浦周辺）
カレイ類（マコガレイ・イシガレイ）	北部の浅場
マダイ	北部及び南部の浅場
アサリ	北部及び西部の干潟（今津川河口・岩国基地堤防前）



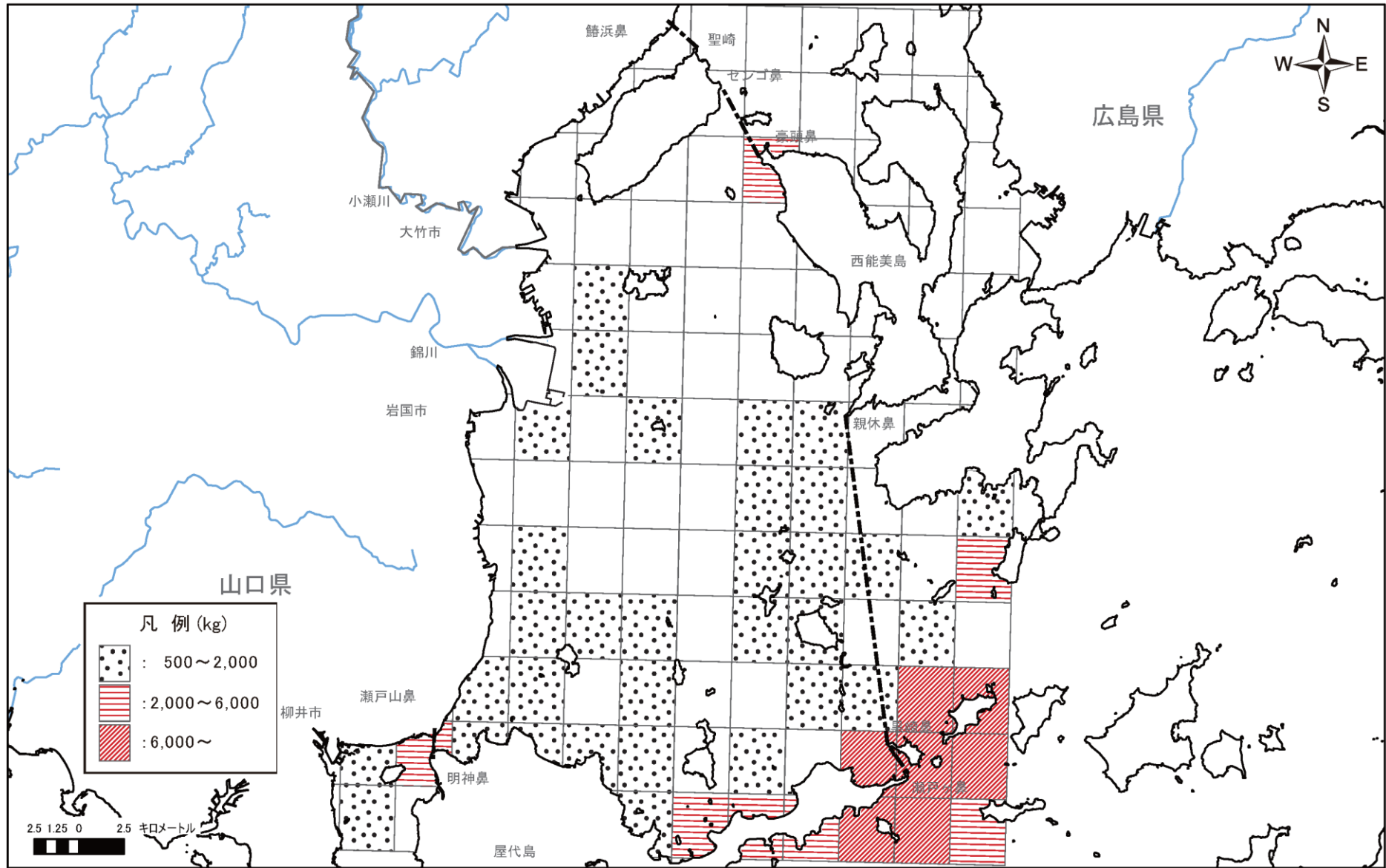
出典：水産庁：漁場環境評価メッシュ図，瀬戸内海（平成11年3月）より作成

図 2.10(1) 主要魚種の漁場分布図（スズキ）



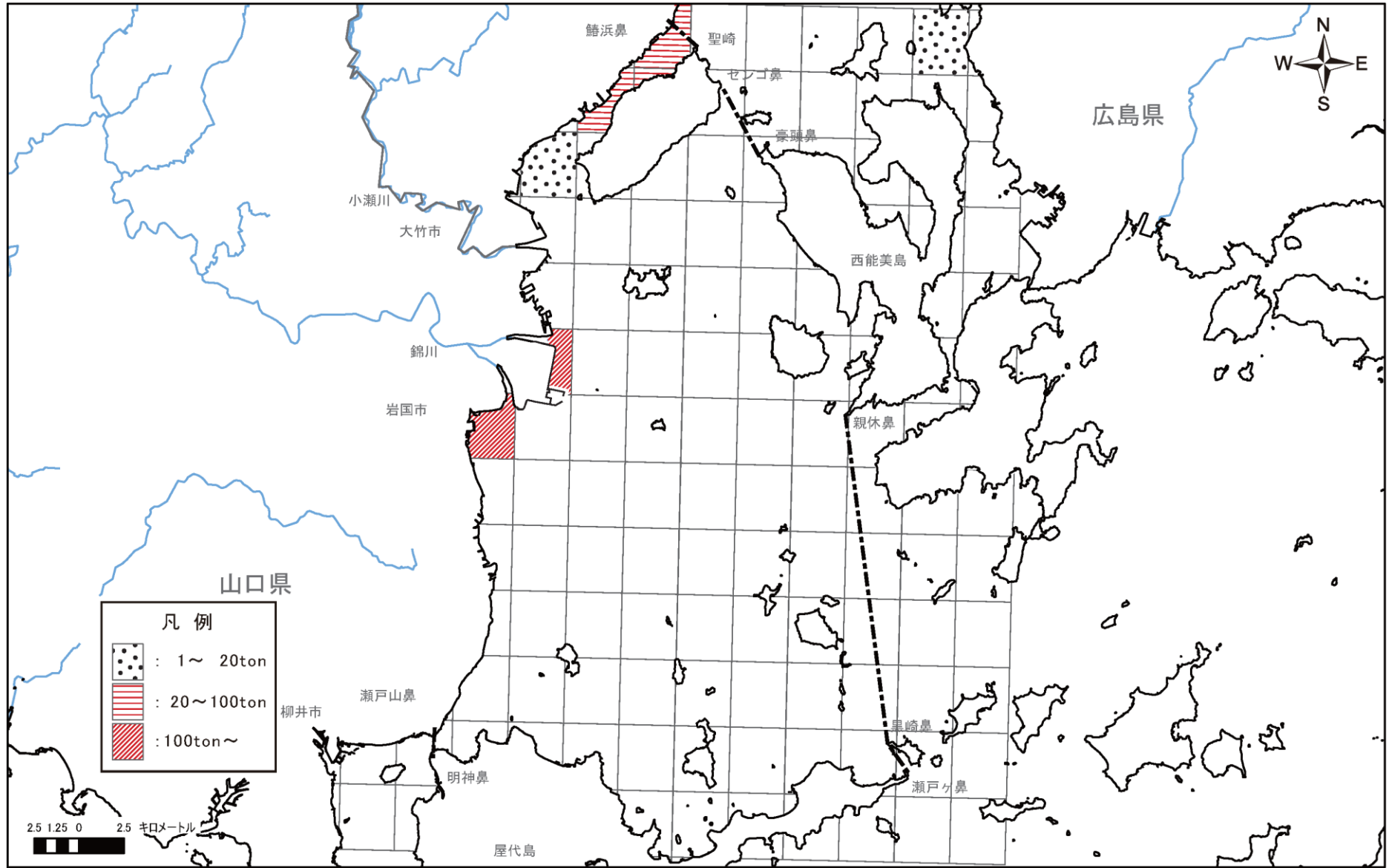
出典：水産庁：漁場環境評価メッシュ図，瀬戸内海（平成11年3月）より作成

図 2.10(2) 主要魚種の漁場分布図（カレイ類）



出典：水産庁：漁場環境評価メッシュ図，瀬戸内海（平成11年3月）より作成

図 2.10(3) 主要魚種の漁場分布図（マダイ）



出典：水産庁：漁場環境評価メッシュ図，瀬戸内海（平成11年3月）より作成

図 2.10(4) 主要魚種の漁場分布図（アサリ）

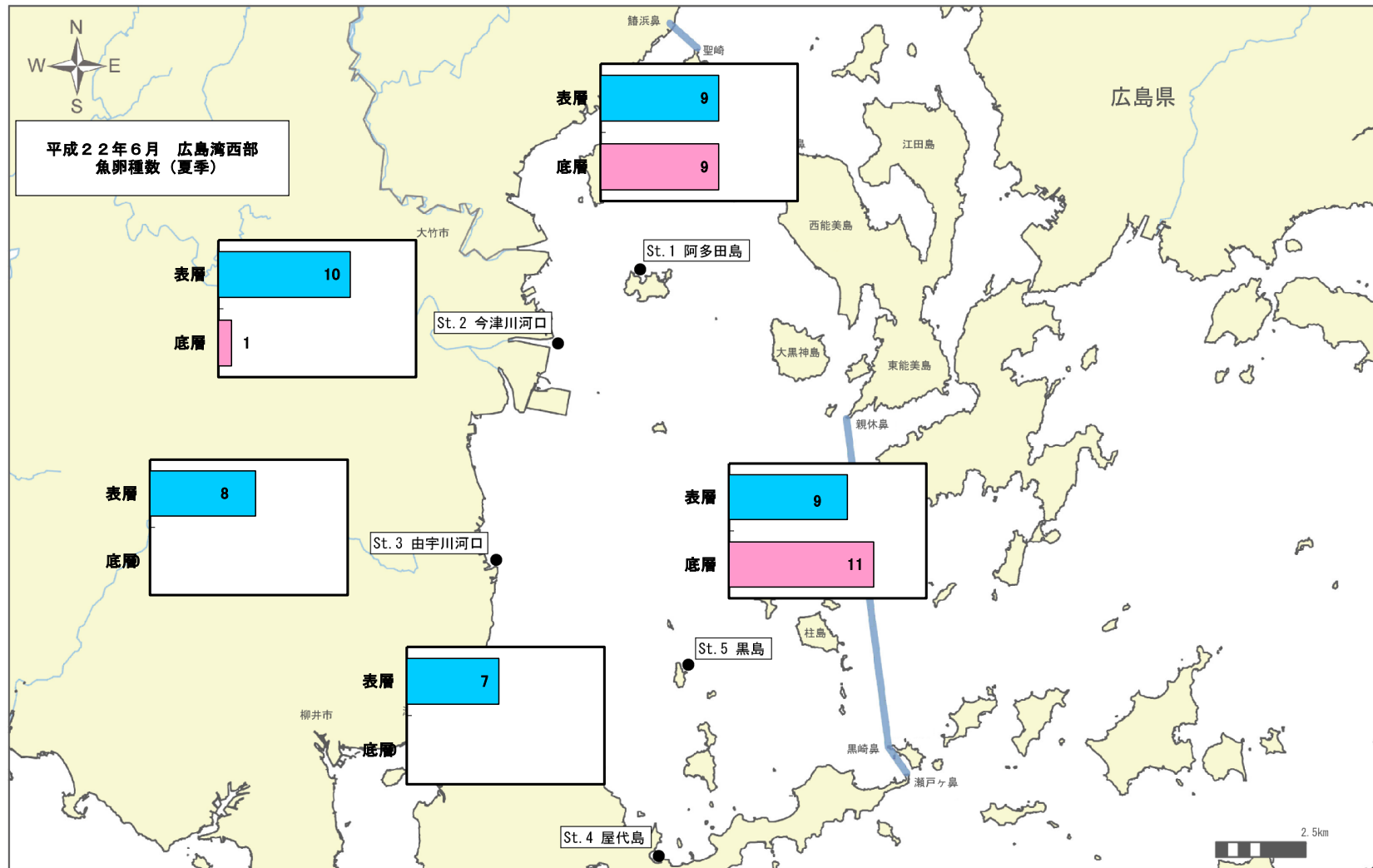
表 2.7 主要魚種の産卵場及び生育場について

主要魚種名	現地調査結果等のまとめ
スズキ	卵は北部の島しょ部藻場、北部の干潟・藻場、南部の島しょ部藻場において、稚仔魚は全地点で観察された。広島湾西部にはスズキの産卵に適した場所はないことから産卵場としての利用の可能性は低いと推定した。生育場については、現地調査及びヒアリング調査結果、既存資料（親魚の分布域を示す漁場環境評価メッシュ図）から、北部の浅場、南部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。
マコガレイ	卵は南部の島しょ部藻場で確認されたが、稚仔魚は確認されなかった。現地調査及びヒアリング調査結果、既存資料から、産卵場及び育成場として北部の浅場、南部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。
イシガレイ	卵は北部の島しょ部藻場、南部の島しょ部藻場において、稚仔魚は南部の島しょ部藻場において確認された。現地調査及びヒアリング調査結果、既存資料から、産卵場及び育成場として北部の浅場、南部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。
マダイ	卵は北部の島しょ部藻場、北部の干潟・藻場、南部の干潟、南部の島しょ部藻場において、稚仔魚は南部の島しょ部藻場において確認された。広島湾西部にはマダイの産卵に適した場所は少ないが、既存資料では産卵場が確認される。生育場については、現地調査及びヒアリング調査結果、既存資料から、北部の浅場、南部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。
アサリ	卵は確認されなかったが、稚貝は北部の干潟・藻場で確認された。現地調査及びヒアリング調査結果、既存資料から、産卵場及び生育場としては北部の浅場、南部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。

既存資料：漁場環境評価メッシュ図，瀬戸内海（平成 11 年 3 月、水産庁）

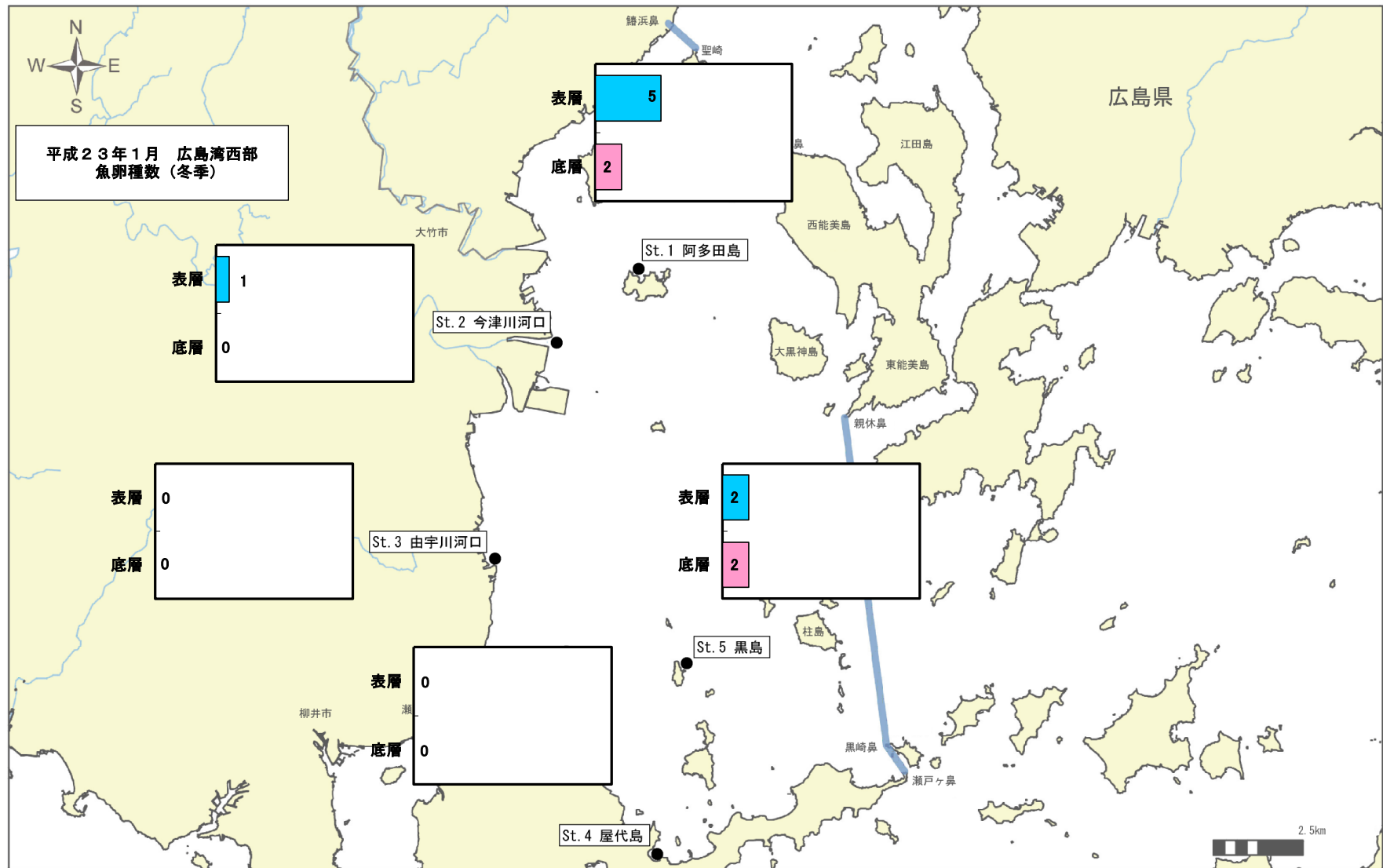
我が国周辺水域の漁業資源評価（平成 27 年、水産庁・水産総合研究センター）

出典：「平成 22 年度水生生物類型あてはめに係る生物生息状況調査業務 報告書」により作成



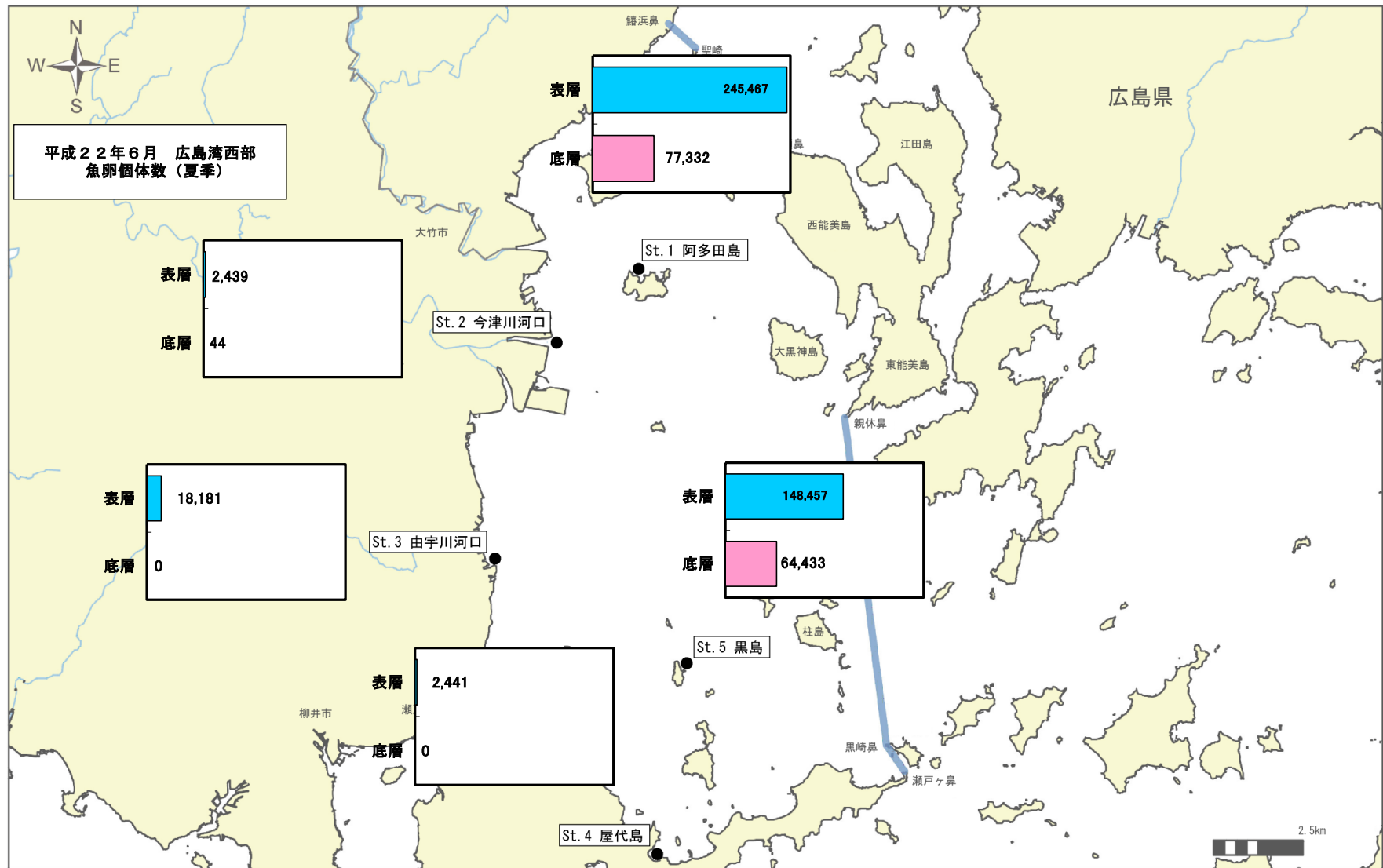
出典：「平成22年度水生生物類型あてはめに係る生物生息状況調査業務 報告書」により作成

図 2.11(1) 魚卵種数の出現状況 (夏季)



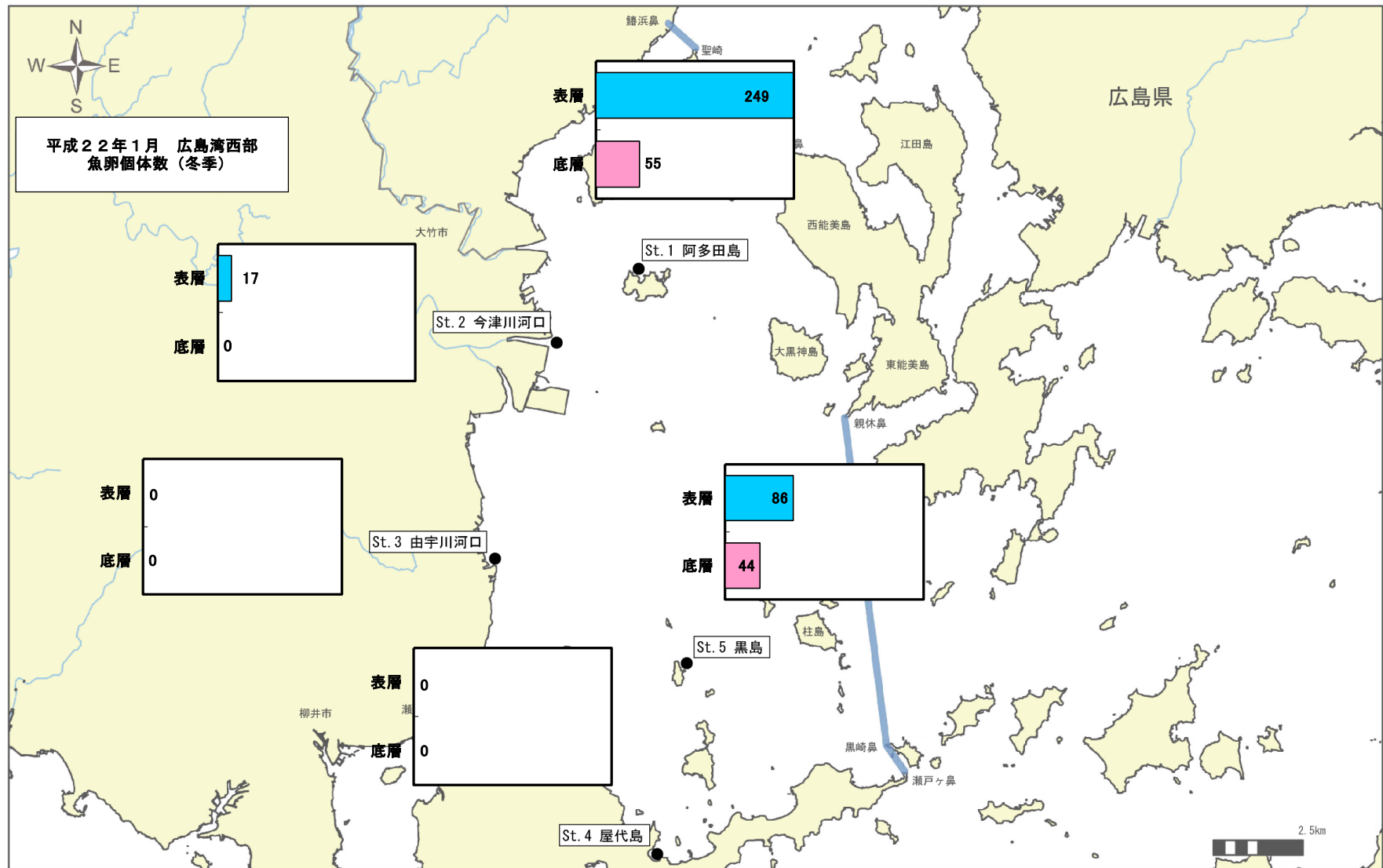
出典：「平成22年度水生生物類型あてはめに係る生物生息状況調査業務 報告書」により作成

図 2.11 (2) 魚卵種数の出現状況 (冬季)



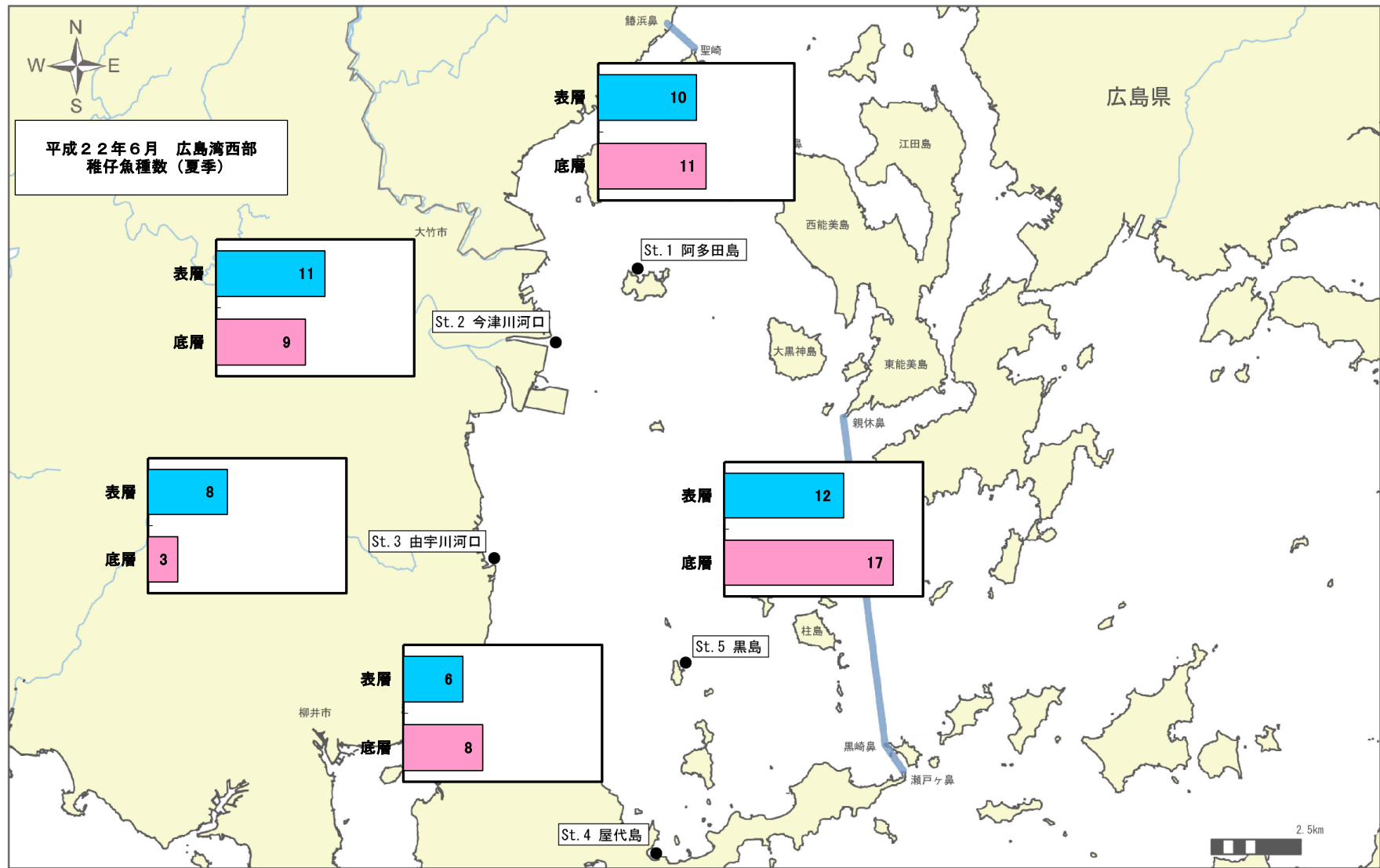
出典：「平成22年度水生生物類型あてはめに係る生物生息状況調査業務 報告書」により作成（図中の数値の単位は、個体/1,000m³）

図 2.11 (3) 魚卵個体数の出現状況 (夏季)



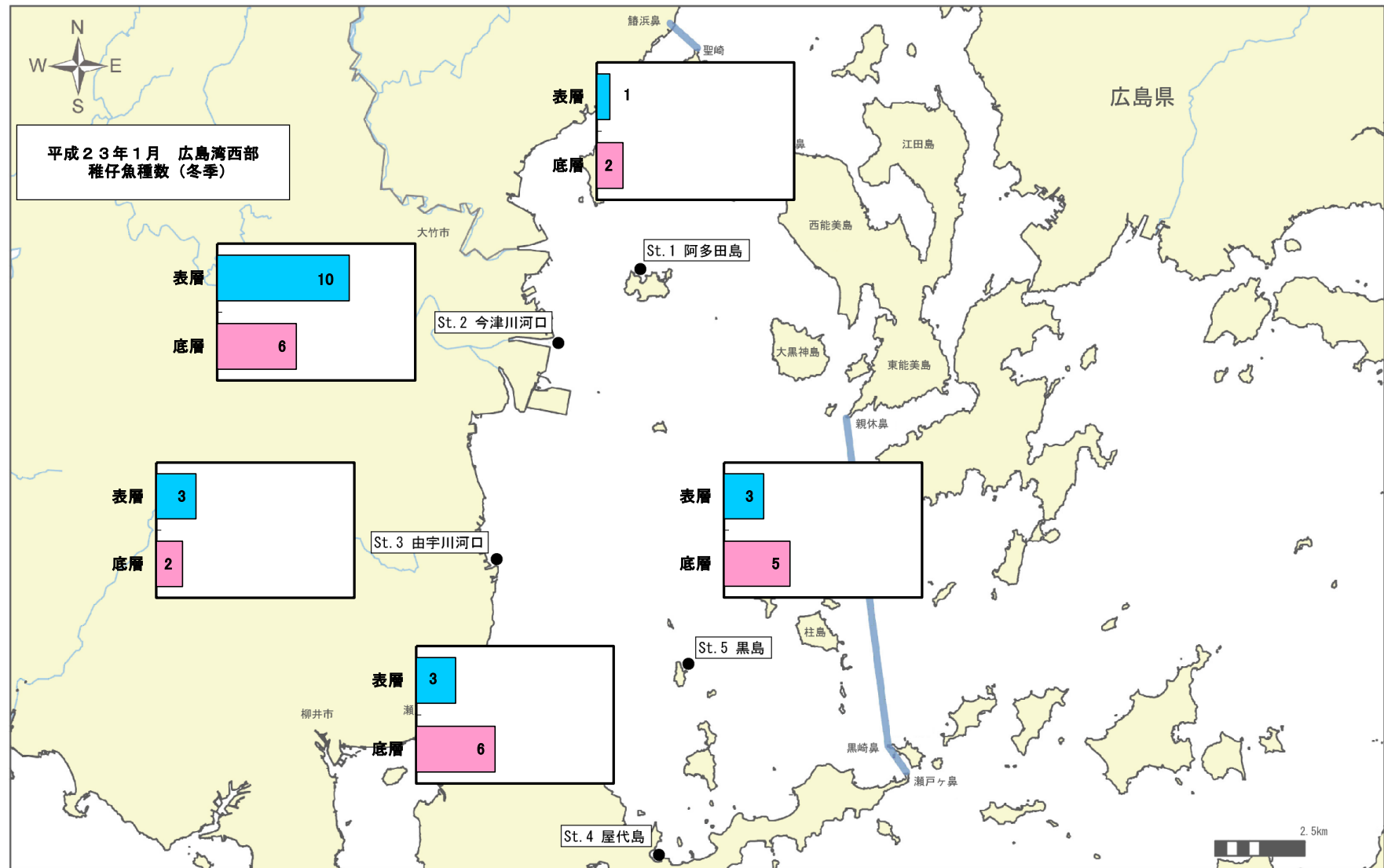
出典：「平成22年度水生生物類型あてはめに係る生物生息状況調査業務 報告書」により作成（図中の数値の単位は、個体/1,000m³）

図 2.11(4) 魚卵個体数の出現状況（冬季）



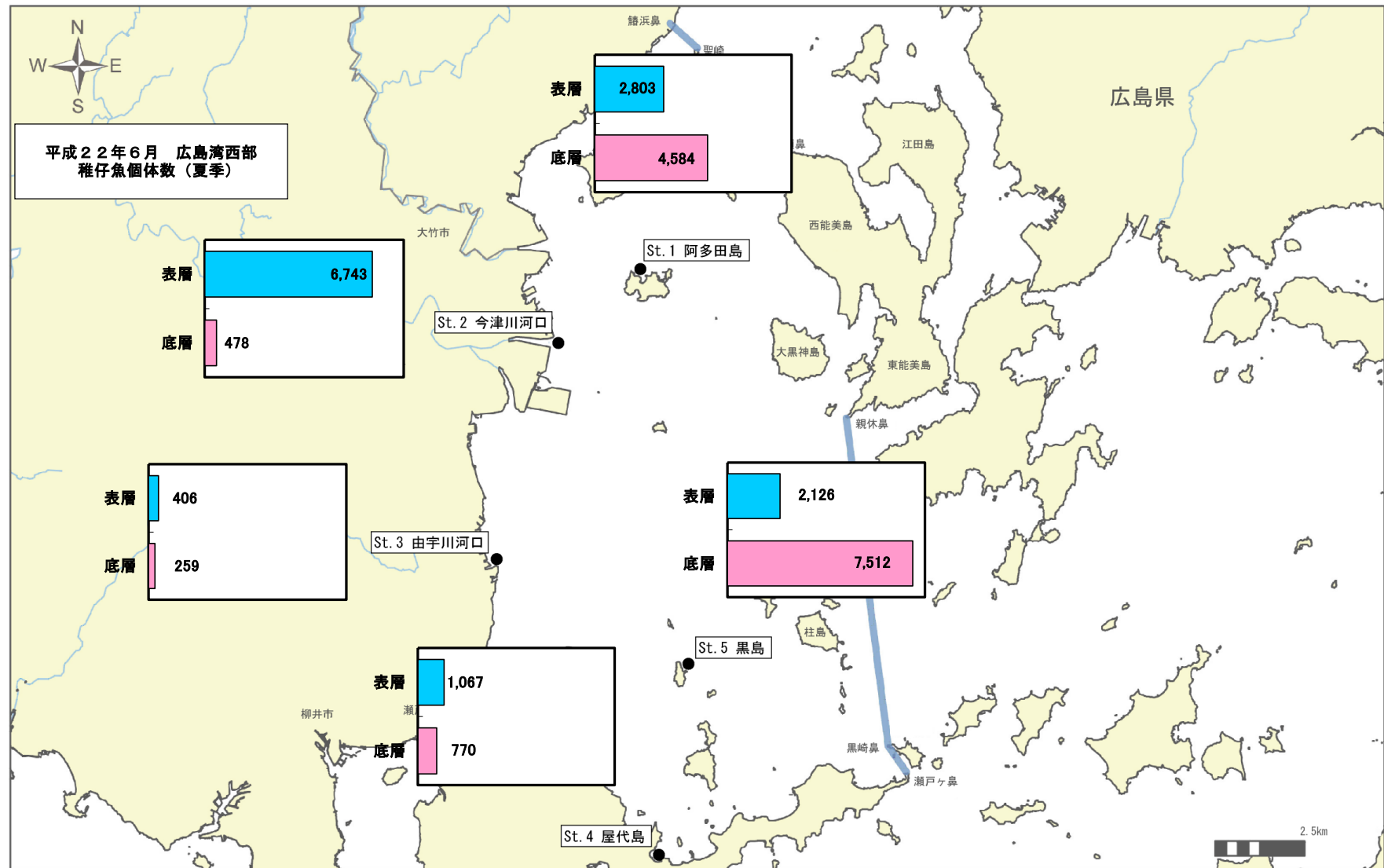
出典：「平成22年度水生生物類型あてはめに係る生物生息状況調査業務 報告書」により作成

図 2.11 (5) 稚仔魚種数の出現状況 (夏季)



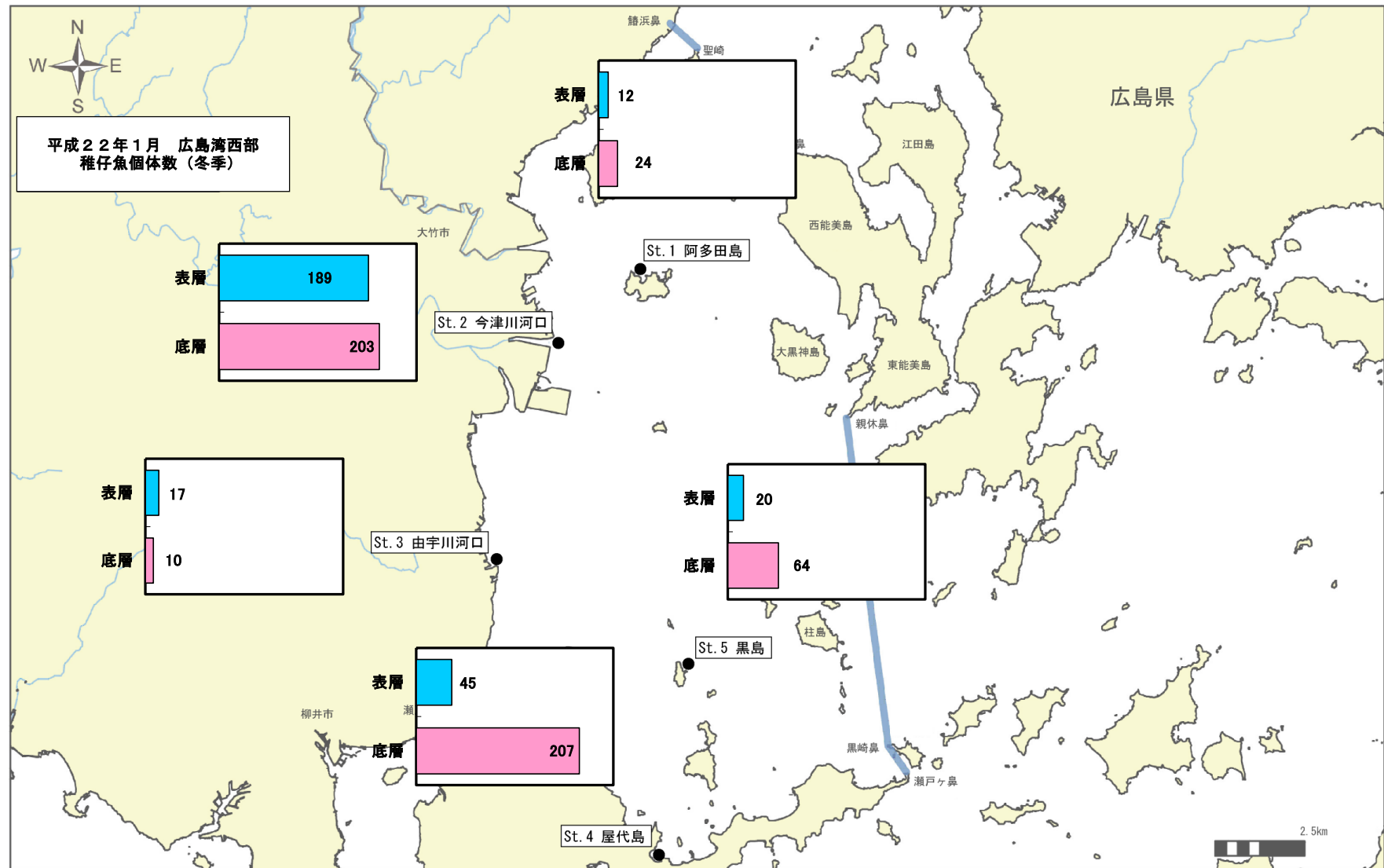
出典：「平成22年度水生生物類型あてはめに係る生物生息状況調査業務 報告書」により作成

図 2.11(6) 稚仔魚種数の出現状況 (冬季)



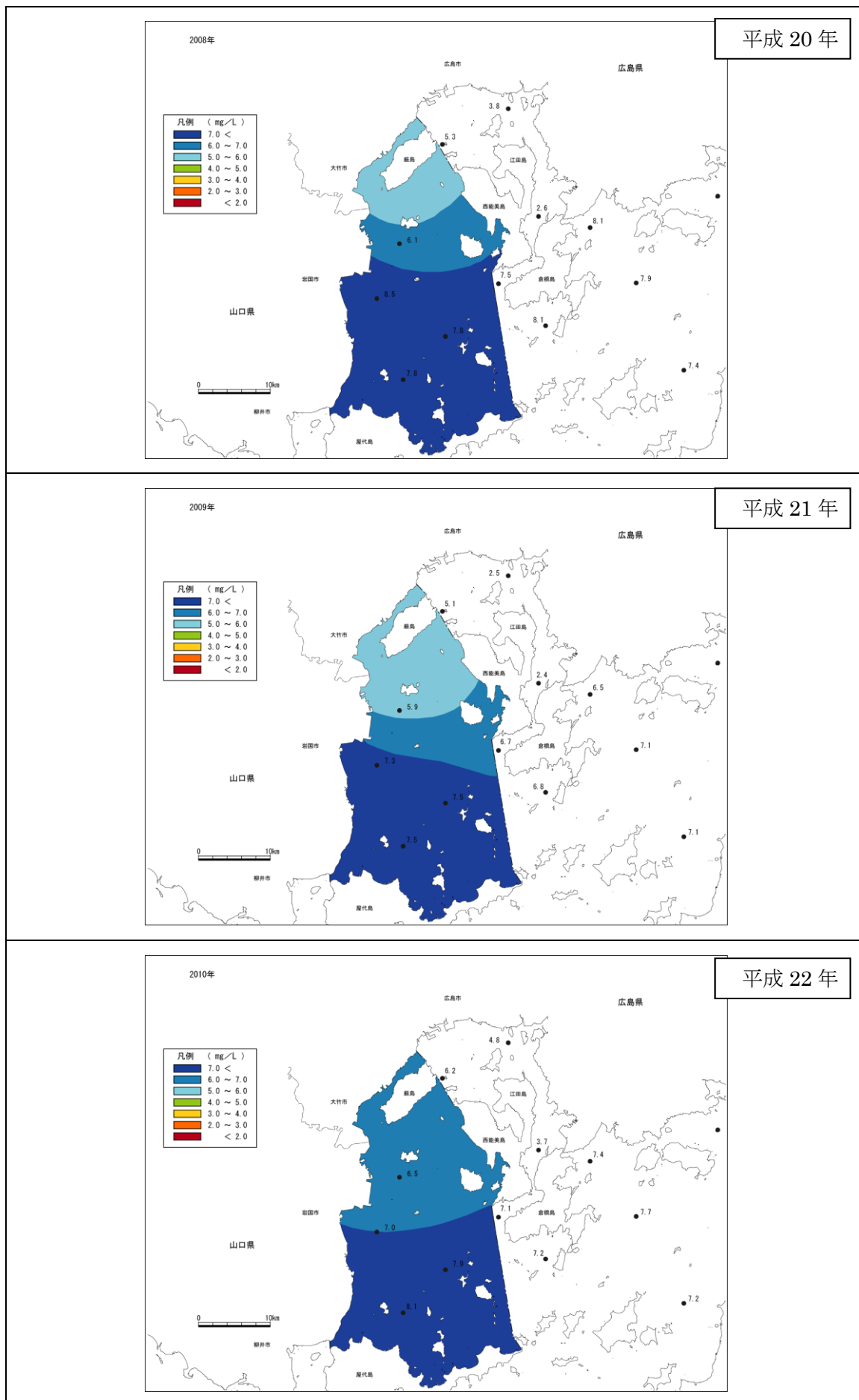
出典：「平成22年度水生生物類型あてはめに係る生物生息状況調査業務 報告書」により作成（図中の数値の単位は、個体/1,000m³）

図 2.11 (7) 稚仔魚個体数の出現状況 (夏季)



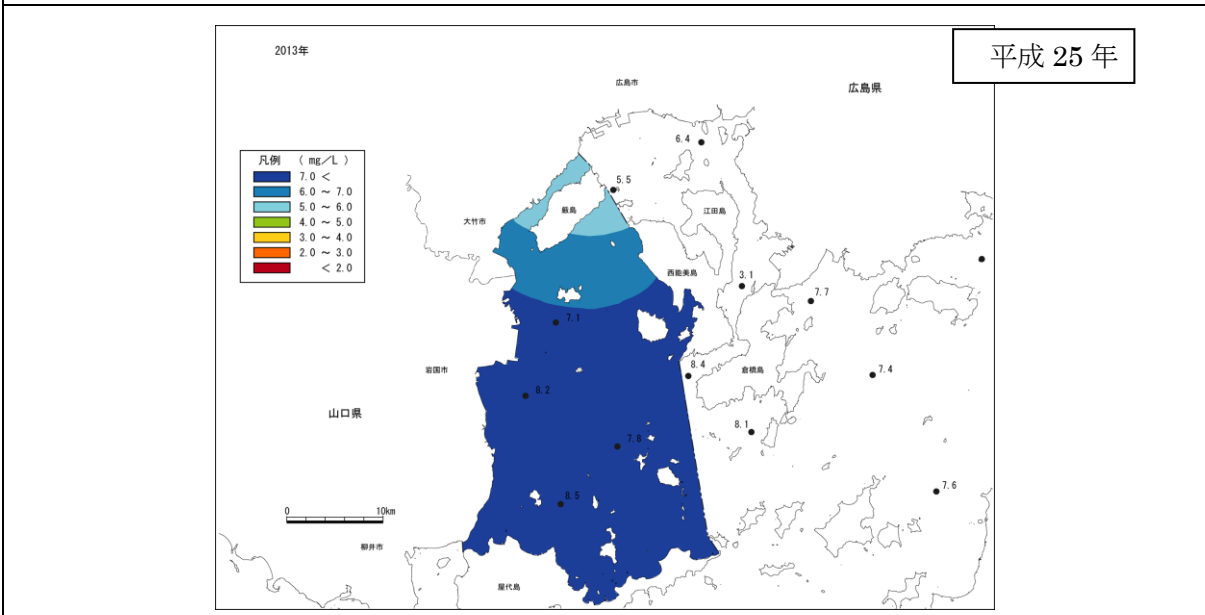
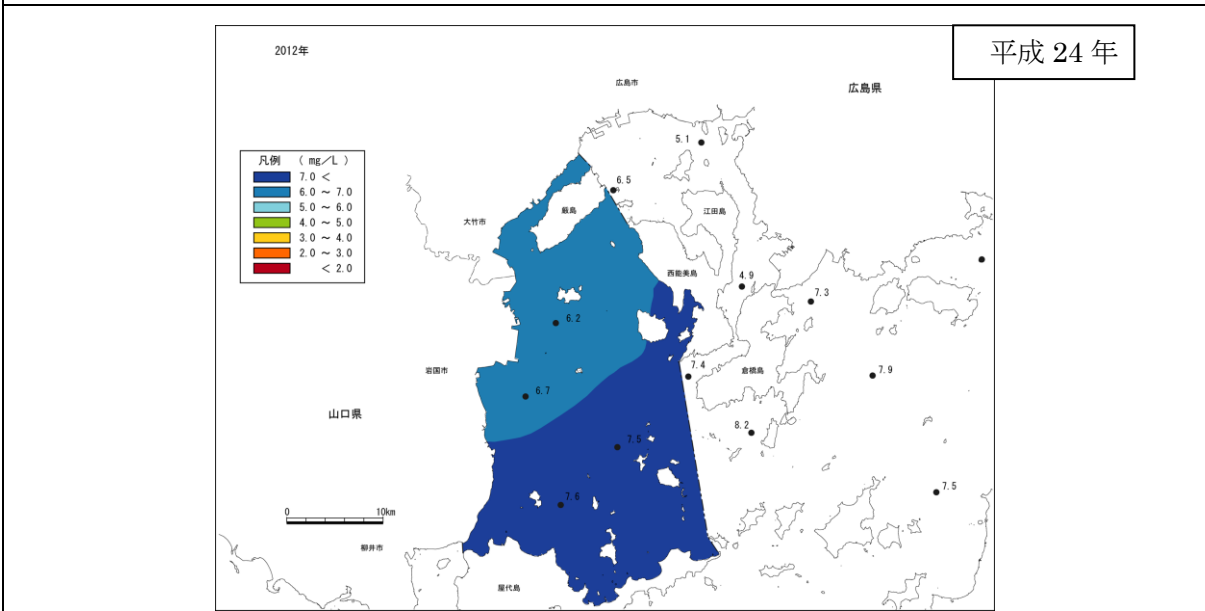
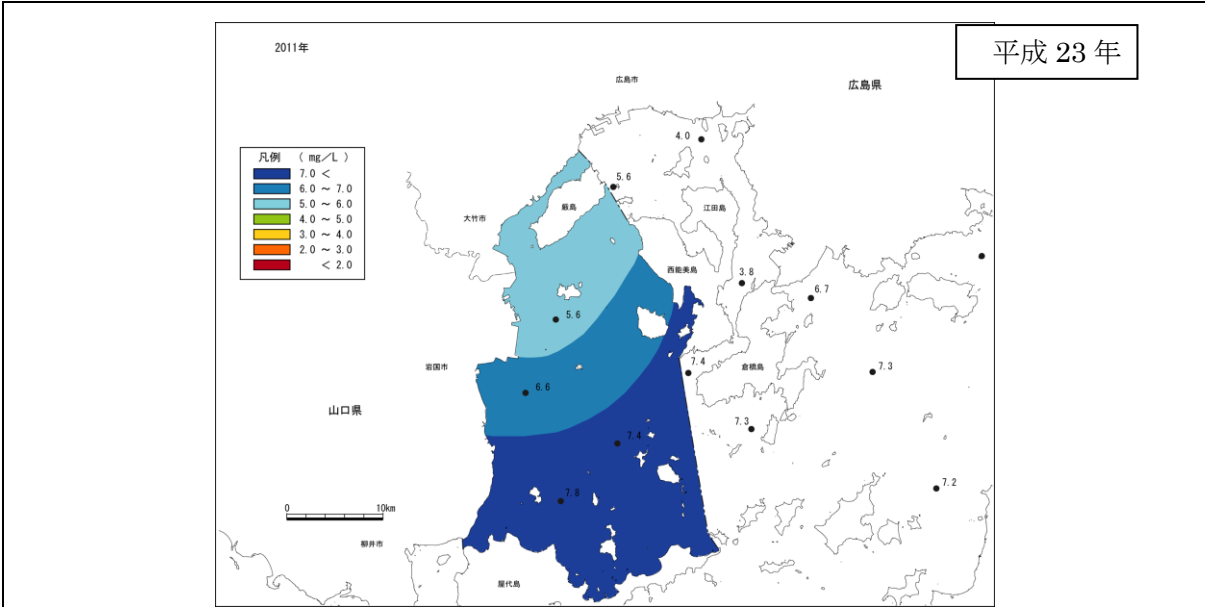
出典：「平成22年度水生生物類型あてはめに係る生物生息状況調査業務 報告書」により作成（図中の数値の単位は、個体/1,000m³）

図 2.11 (8) 稚仔魚個体数の出現状況 (冬季)



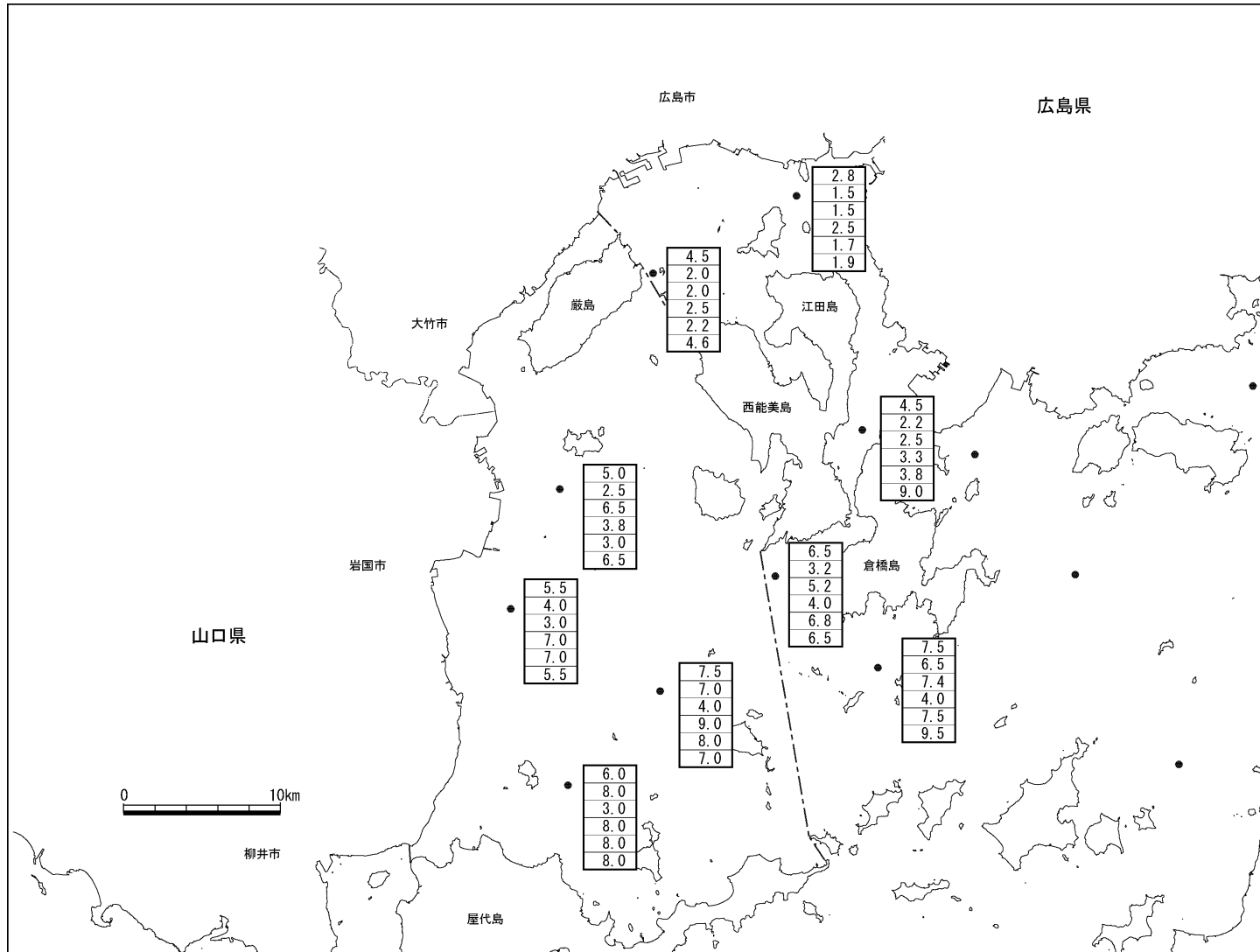
出典：環境省広域総合水質調査結果

図 2.12(1) 夏季底層DO分布の経年状況（広島湾西部）



出典：環境省広域総合水質調査結果

図 2.12(2) 夏季底層DO分布の経年状況（広島湾西部）



出典：環境省広域総合水質調査結果

注) 各地点の値は上段から順次、平成 20 年～平成 25 年の透明度 (m) を示す。

図 2.13 夏季透明度の分布 (広島湾西部：平成 20 年～平成 25 年)

